

令和元年度 第1回能美市総合教育会議 議事録

日時 令和元年11月15日(金)

午後1時30分～

場所 能美市役所 1階 大会議室

○出席者

市長 井出敏朗

教育長 谷口 徹

教育長職務代理 南 俊博

教育委員 亀田美穂

教育委員 畑中美千代

教育委員 秋山珠緒

○事務局

総務部長、総務課長、総務課担当課長(司会進行)

総務課課長補佐

○教育委員会事務局

教育委員会管理局長、教育委員会次長兼教育総務課長

教育総務課課長補佐

学校教育課長、学校教育課課長補佐、学校教育課主査

生涯学習課長、スポーツ振興課長

○傍聴者 1名(テレビこまつ)

井出市長)

常日頃は能美市の教育行政の振興に対し、委員の皆様方には大変お世話になっていることに、まずは御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

今日は、大きく分けて二つの議題がございます。学力に関しましては、教育委員会、学校の懸命の努力、そして教育委員の皆様方のご尽力も頂きながら、少しずつ少しずつ向上しているところであります。そして来年から、いよいよ新学習指導要領が始まるということで、今小中学校では英語の授業の改善を試みているところでもあります。

私も先日小学校の「外国語活動」という名称でございますけど、見に行かせていただきました。

一般的には、「もっと国語を充実させた方がいいんじゃないか」というような声もある中、授業を見させていただきましたら、「アメリカの学校は制服を着ていないんだよ」とか「靴を脱がないでそのまま教室に入るんだよ」というような、例えば文化の違いというものを経験を通して学習できる事もありますし、「You are excellent」ですとか、「You are wonderful」だとか、日本人だと中々人のことを褒めませんが、ああやって英語を使うと子どもたち同士が互いを褒め合うというような、そんなことも体験できるなというような、英語の授業を通して色々なことを学べるなということを、私自身も改めて確認させていただきました。そして何よりも小学校の英語の授業には EAA さんという方がいらっしゃるって、お二人で授業を担当していらっしゃる。クラス全員が英語の授業に参加しているという雰囲気を見せていただいて、「おお、こういうことをしていけば、また学力もどんどん上がるな」と期待をしているところでございます。

今日は1時間半という長い時間ではございますけれど、どうか慎重審議を頂き、能美市の教育行政に対してご意見、ご助言を頂ければと思っているところでございます。よろしくお願いたします。

谷口教育長)

それでは私の方からご挨拶を申し上げます。本日は令和元年度第1回の総合教育会議でございますけれど、よろしくお願いをいたします。実は午前中、市長と共に、能美市の新規採用職員の懇談会に参加をさせていただきました。その場で市長から「東京にいる友達に能美市に移住・定住してもらう時にどういう魅力を伝えるか」という命題が出されまして、そこに参加している新規職員9人中、ほとんど「能美市の教育です」という言葉を聞くことができなくて、教育行政を預かる者として本当に責任を痛感したところであります。市長は5つの施策と2つの事業を通して移住定住促進を図っている訳でございます、その中の大きな柱、「教育力の向上」のために、大きな予算を付けていただきながら色々取組を行って来ている訳でありますけれど、まだまだ市の職員ですら十分に浸透していないというようなことを思った訳で、しかしながら今ほど市長のご挨拶にもありましたように、間違いなく子どもたちの笑顔は学校の中に少しずつ溢れつつありますし、いろんな所で画

期的な実践も行われつつありますので、これに寄与しながら能美市に沢山の人が集まってくるような、そして、子どもたちに沢山の笑顔が見られるような学校教育にしたいと思っております。

先ほどもございましたが、学力の向上策と教育環境の整備ということで今日は色々ご協議いただく訳でありますけれど、忌憚のないご意見でこれから令和元年度の後半戦と来年度に向けた議事について深めて行ければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

(議題 1 番の市内小中学校、学力の現状と学力向上策について学校教育課より説明)

秋山委員)

学力調査の6年生の結果で、学力調査の問題を見てみましたら、技能的なことについてはわかりませんが、普段の単元テストとは違って、答えを出すまでにとっても長い問題文とか説明文を読まなければならなくて、子どもが落ち着いた気持ちでなければ、回答にはたどり着けないのではないかなと感じました。技能とか、学ぶ力とか、色々な力が学力に求められますけれど、根元の部分でやっぱり市内の子どもたちが落ち着いた良い環境で生活できている一つの証ではないかなと思ひ、この結果を見ていました。以上です。

亀田委員)

先ほどの「能美市の学びのベーシック事業」の学力調査結果の小学4年生の表を見て、分からなかったのですが、この国語・算数・社会で、指定校が全体的に平均点を上回っていて、未指定校4校が下回っている訳ですが、能美市の小学校全体のレベルというのは小学校によって、初めから違う、みんな均一ではないと思うんです。ベーシック事業でこれだけの差がありましたといっても、ちょっと判らないというか、初めから低い学校もあるかもしれませんし、そういうところは若干あやふやな感じかなと思ひました。けれど、話しを聞いていまして、やはり手立てを考えて、先生方の指導力を高める努力をされている結果かなと思ひました。やっぱり先生の方・指導力というのが子どもたちの教育に絶対欠かせないもので、先生達に頑張ってほしいということが考えさせられました。

司会)

今ほどの点について、1年生の最初の数値というのはいないですか。

学校教育課長)

小学校の入学時点、小学校1年生については統一したテスト等はないので、客観的な数字で当初からの差を把握することはできません。ただ、亀田委員が言われたように、当然その子の持っている能力というものもありますし、入った時にもう差が有るか

思います。これは6年生なので、6年間の学校の授業または学校の教育で、その分、力がついたというふうに考えています。指定校には大学の先生とか入って頂いているということで、教員の指導力も上がっていると捉えています。

亀田委員)

ということは、やはり、外部の先生方の支えというか、そういうことがあればこそ、先生たちの指導力アップにつながるんじゃないかと思いますけれど、そういう学びの場というものが、今から能美市全体に広がって行くことを期待しています。若手とベテランが協力し合うとか、外部からの講師とか、学校と教委の組織的な繋がりとか、そういうことを大事にして先生たちの学びの場を充実して欲しいなと思います。

南職務代理)

少しずつ能美市全体が底上げされている結果については以前から聞いていましたが、これは非常にありがたいと思います。先ほどの資料で、中学校の3年生はもうちょっと底上げしたい。先生方の資質を向上させるという対策の話もいろいろありましたが、子どもたちの意欲をなんとか上げられないかと考えていたんです。

実は計画訪問で伺った時の中学校で、実際に世の中で活躍されている方の話を聴いて、目標を持たせようという計画を立てると校長先生から、そういう具合に計画をしてるという話がありました。

その時に、以前にテレビの番組で見たことあるんですけども、すごいなと思ったのは、品川女学院というところが、私学でなかなかお客さんも集まらないというような状況で、その時の校長先生がいろんな工夫をされて、今や名門校になっているという話を聞きました。女子高校ですが、生徒たちに将来どういう職業に就きたいかという目標を決めさせて、それに対して、それまでどれくらい、どんなことをやらなくちゃいけないかということ自分らに計画させて、実績を上げた。女性の場合は男性よりも煩わしい事もありまして、結婚しますと、一度休みをいただくこともありますね。それも含めて、いったい何をしなくちゃいけないのかとか。

この目標が決まれば、そこで自分がどういう勉強をしなくちゃいけないか、それも決まってくる。自主的に計画をさせて、いろんな企画もして、士気を上げるみたいなことをやった結果、すごく効果を上げたという番組を見たのを思い出しました。その時に、こういうことは中学2年生ぐらいからの方が私はいいんじゃないかなと思ったんです。

やはり3年生になりますと、それからいきなり世の中に出てくる子もいますし、ちょっと早いかもしれませんが、有名な人でなくても構わないと思うんですが、実際に現場でいろんな形で活躍されてる方を講師に、実際にはどういう努力をしてきましたよとか、こういう科目は大切ですよとかいったことを講演して頂くという形で、中学校の場合はこれから計画しようっていう話でしたけれども。

中学生だったら 2 年生の末ぐらいから 1 年間かけてやってったらいいんじゃないかと思いました。ただ一番難しいのは、その時に士気を上げることです。

それで、こういうことやりたいなっていう生徒が出てくれば、憧れの人とか、理想の人とか、そういうのが生まれやすいような形にすれば、それに向かってまた努力してくれる子が今後出てくるんじゃないかな。そういうことを少し考えてみるというのもいいんじゃないかなと。

それから、低学年の方なんですけども私も今小学校の方で、子どもたちを見てるんですけども、本当に何も知らないみたいなどころがあります。やっぱり一から順番にやっついていけないんじゃないかなと。

もう一つは、教室に入れない子もいるわけですね。いろんな形で、教室になかなか入れないとか、不登校の子とかいろんな形の子もかなりいるという状況もあります。こういう子たちに試験を受けさせれば当然、平均点は下がると思うんです。

そういうところなんか何か手立てがないかなあということで、一つは後から出てくる ICT 関係に関連してくるんですけども、タブレット端末がこれからどんどん導入されてくるということなので、例えばそういう機器で算数のドリルみたいなものをやらせる。必ずしもそれ自身が良いかどうかかわかんないんですけども、もっと簡単というところ怒られるかもしれませんが、そのレベルの子に合ったような、10 問問題が出てきて答えるみたいな感じのものを作って、それで自学、自分のペースで学習できる仕掛けをするというのも、一つの案じゃないかなと考えています。

大学でも、大学の授業をインターネットで全部見ながら学習するっていう仕掛けもあるんですけど、一番問題なのは、それをやろうという意欲なんですね。そういうものを使って、やるのは良いんですけども、これも子どもたちにどのようにして、やろうという気を起こすかという仕掛けを、要するに好奇心をどんどんつけてあげるみたいなことですね。こういう方法も一つあるんじゃないかなと考えながら、子供たちを今見てるんです。

これは小学校の先生とか、相談しながらアイデアもいろいろ討論をしながら考えていかなければならない事だと思うんです。幾つものレベルで本当に 1 年生からとか、幼稚園からやった方がいいのかもしれませんが、そういう具合に考えて、それにはタブレット端末が自由に使えるような環境も作ってあげないといけないんですけども、それも導入して、要するに自分のペースで、実績が上がるには本当に時間もかかるとは思いますが、自分のペースでやって、自動的に学習できる。そして地域の人とか先生が見守りながらという形で使えるような、教材を作って提供する。

1 個良いものができれば、それを一度作ってしまえば、各校、全部共有できるというような、方法も一つあるんじゃないかなと。

いきなり何か思いつきみたいな形で、まだそういう段階でですけども、そういう形で考えるのも一つの手ではないかなと思います。

谷口教育長)

はい、タブレット端末という事ではないのですが、実は、昨日、市長と JAIST の学長、副学長さんと、懇談をする機会がございました。日本の最先端の研究をやっている学府がここにある訳ですから、これを能美市の最高の教育環境として活用しない手はないということで、市長から学長にお願いをして頂いたわけですけど、その場で学長さんから、学び方とか、学びのやる気にスイッチを入れるような、そんな取組にぜひ協力したいという言質を頂きました。近々に具体的な子どもたちの意欲向上のための取組を話しをしていきたいなと思っているところなので、そんなふうにプログラミングもしていきたいなと思っています。

井出市長)

教育長のお話しに追加させていただくとすると、能美市に縁の方で頑張っている方がいいんじゃないかなと思います。観光大使にそういった方が沢山いらっしやるので、そんな方に講演いただけるようなお願いをして、やってみたらいいんじゃないかと、提言いただいた事を少しでも実現していきたいですね。

畑中委員)

先日、ある学校の道徳の授業なんですけど、最後の総評で、1人の先生が、その授業をすごく褒められて、今までいろんなところで見えてきた授業の中で一番の授業だったという事をおっしゃられていました。確かに、その時の子供たちの目とか全然違ってたんです。輝きがものすごく違ってて、教室の授業一体になるような感じで、本当に嬉しく思って聞いたんです。能美市には、そういう授業ができる先生がいっぱいいらっしやるんです。ですから、学力調査について指定校が本当にこれだけ差があるということは、それを先生方の励みにしてほしい。多分統計を取られると思うんですけど、本当に全部指定校にしたいくらい。

それと、先生方は、ベテランの先生とか若い先生区別なく、職員室の中で、子供たちの失敗とか、自分たちの失敗とか、そういうのを話し合える、そういう職場であって欲しいとか、そういう仲間が子供たちを成長させられさせるような気がして、チームの学校と言いますか、そういう感じの能美市の学校であって欲しいなとつくづく思ってます。

点数が上がる下がる、それだけではなくて、もっともっといろんな場面で能美市のいい所を子供たちに見せたりできるような、そんな先生方に成長していつもらえるような、やり方をしていっていただきたいなと思います。要望です。

司会)

先生方が協力して子どもたちを伸ばしていくという職場ということですが、現場ではど

うでしょうか。

学校教育課課長補佐)

ありがとうございます。本当に各学校とも「チーム学校」という言葉がよく言われますけれども、校長先生を先頭によくまとまって、どの学校も一つになって、子どもたちのためにとって、いろんな小さな取り組みもあれば、今おっしゃっておられたような、研究大会に向けてとか、いろんなことを目標に、まずはでも子どもたちの力をつけることを一番に考えて取り組まれていらっしゃると思っています。私も訪問でいろいろ廻っていますが、本当に今どこの学校も、職員室とか、それから学校の雰囲気も、まとまって一つの方向に向かって頑張っているという事を感じています。

亀田委員)

今ものすごく能美市で活躍、頑張ってもらってる事業の「コミュニティ・スクール」ですが、地域と学校が連携して、ものすごく先進的なことをやっていると聞かないかなと思います。だから、力がものすごく出ているんじゃないかなと思います。そういうことから、今までも職員室の中もそういう雰囲気作りで子どもたちを育てるっていうか、学力向上に向けて今能美市の学校の先生方が頑張っている姿が、さっきのグラフが着実に伸びていることから、見えているんですね。やっぱり継続的に成果を上げるには、それぞれ意識を持って家庭も学校も地域も協力して子供たちを育てる雰囲気を作り上げるという事が大事だと思います。

最近ものすごく心配なのは家庭の力っていうか、その力が昔から見れば、ちょっと衰えてきているんじゃないかなと思います。昔は「親の背中を子が見て育つ」という言葉がありますけども、私達が子どもの頃っていうか、戦後、市長さんとか教育長さんより、もうちょっと上の方、団塊の世代の方、私どももそうなんですけども、親と一緒に遊んだ、旅行に行った、お喋りをしたというのは、皆さんはどうか分かりませんが、私はそんな記憶あまりないんです。

親子で今、コミュニケーションとか、家庭に、家庭にと言われてますが、あんまりないんです。何が記憶に残っているかと言ったら、一緒に働いた記憶とか、田んぼでお手伝いをしたとか、ずっと畑で親と一緒に作業したとか、そういうことなら今でも記憶が鮮明に残っています。私たちの子ども時代というのは生活の一躍を担う存在でもあったような気がします。そして子どもは子どもなりに、働きながら親の背中を見て育っていたような気がします。

でも、現在私たちは大人になって、ちょうど私たちが大人になる頃は高度経済成長の時代です。大人になって段々親元を離れて、一心不乱に経済成長と一緒に育っていった世代なんです。私達の親は一人前になってからは、子どもたちを見守る存在で、子どもの背中を親が見詰める番っていうか、そんな感じで今の80代以降の人は私たちを見ているように思

います。

今の子どもたちの若いお母さんお父さんの世代になると、その子どもたちが親の背中を見るという機会があまりないような気がします。

お手伝いは、よく学校の先生が宿題で、「お手伝いしましたか、何かしましたか」って言うけども、任せられる仕事があるかという、そんなものはないと思います。

やっぱり私達の子ども時代は、ある程度の歳になれば親が任せるということがありました。でも今は任せられる仕事って子どもにはありません。

結局、そういうことは免除します、頑張っただけ勉強しなさいという方に、今は向いているような気がします。そういうことが、さっきの本質じゃないかなと。

南さんの言う「意欲」と「本質」ちょっと似てるんじゃないかなと思うんですけども、学歴偏重になりまして、今の韓国の受験の様子を見て、韓国の子どもたちは一心不乱で朝から晩まで勉強して、小学校から受験して、大学の試験に向かって行って、遊びも何もしていません。そういう子どもたちが将来心配だなんていうのは、皆さんなんとなく心の奥底に、今の大人は持っているんです。本当に生きる力ってついてるのかなって。思うんです。

だから、将来必要になる力を学校で身につけて、社会に出るといこと、その学力をつける大切さを、先生方が子どもたちに発信できるようになると良いと考えています。ですから、家庭でできることも学校から発信していただきたいんです。

家庭でのコミュニケーション能力は、学校のことをよく話す子供になれとか、それから親も、今こういう社会ですから、もうちょっと子供に関わる様にして、忙しいから学校に任すではなくて、家庭も親も子どもに関わるということで、学校と一緒に保護者も子どもたちを育てる。だから、コミュニティ・スクールとか、そういうことが今言われているのではないかなと思うんです。

とりとめもない話になりましたが、やっぱり生活力っていうのは、どんなに小さくても弱くても、生きる力は生活の中から生まれてくると思うんです。だからその中の一つが勉強なんだと思うんですけども、そこからまた意欲が出てきて、また勉学に繋がっていくのではないかなと思います。

だから能美市には、コミュニティスクールがものすごく今いい方向に向いて、訪問に行ってもやっぱり能美市の方がすごいなっていうところがありましたよね。だからこれをぐんぐん伸ばして、能美市の里山とかいろんな所を子供たちに触れ合いさせたりとか、博物館が出来ますから、見学させたりとか、そういう地域でできることを含め、いろんなことを身につけさせて行けば、もっともっと豊かな子どもたちが育つんじゃないかなって思います。

(市内小中学校の ICT 機器の整備計画と活用について学校教育課長より説明)

南職務代理)

ハードウェアは資料に載っているのですが、わかりましたが、実際に、ソフトウェアの関係は Windows の OS だけではなくて、例えば、私今行っている所では、Photoshop のエレメントとか、シンガーソングライター、これは音楽用ですね、それからホームページを作成するためのホームページビルダーが入ってましたけども、それは各学校みんな共通なんですか。全部入れてあるんですか。

学校教育課主査)

今の iPad や PC 教室に入っているもの、基本同一のものが各学校に入っております。

南職務代理)

そうするともう一つは、CIS 等のコンテンツを転送したりできるものも入ってる訳ですか。子機にデータを送るものですが。

学校教育課主査)

パソコン教室では、先生の親機の方から各学生の子機の方へ監視等が行えるようになっておりますので、そちらもあります。

亀田委員)

説明で分かったことは、子どもたち、それから先生にも多くのメリットがあったということで、やはり今までの授業で実現できなかったことができるっていうことから、子どもたちのモチベーションがすごく上がるんだらうなっていることですね。うまく活用すれば、子どもたちも先生も楽しみながら、先ほどもいろいろやりましたが、社会とか国語の授業で効果的な学習ができています。

それから体育の授業も、積極的にみんなが参加しているということがわかりました。そして働き方改革にも繋がると言われましたが、先生の時間短縮もいろいろな面で図られるということや、先生たちの情報共有も簡単に出来るということがわかりました。

先ほども学校教育課長さんが言われましたように、本当に主体的で深い学びを目指せるということが、本当にいいメリットだなと思いました。

でもデメリットの方はまだ聞いていませんけど、心配事というのはないでしょうか。

私もそういう IT 機器はちょっと不慣れなんですけども、ちょっと機械に疎い子どもたちとか、さっさとできることは良いですけど、そっちばかりに気を取られていて、途中でおかしくなったって言って、授業内容について行けないとか、先生もそっちに気を取られて、寸断されるというような、そういうことはないのかなという心配がありますし、あと故障した場合とかの対応とか、先生の故障を治す力とか、対応できる先生を育てるっていうことも考えられているのかなっていうこともお聞きしたいです。

学校教育課長)

デメリットの方ですけど、インターネットを校内に入れるときのセキュリティーを、どこまで高めるのかということについては、はっきりと決まっておられません。セキュリティーが甘いと、危ないサイトに勝手に行ってしまうということも考えられます。その部分については、視聴覚教育の方でそういうサイトに行くと大変危険であるというような学習をしておりますけれども、ハード的にどこまでセキュリティーを高めるかということについてはこれからです。

故障については、サポートという部分において、市全体で、市長戦略室等と連携しながら、対応していきたいというふうに思っております。

亀田委員)

よろしくをお願いします。

畑中委員)

4 ページの ICT の整備計画なんですけど、素人考えでは、例えば、宮竹小は 3 台のタブレットを、今回すぐに 38 台に増台となっておりますけども、例えば根上中学校で 5 台しかないところに来年は全然増台しないっていうことになると、タブレットの 2 人で 1 台持つという段階でも全然不足。そういう授業ができないことになる。拠点校はどんなふうな考えで決めているのかということを知りたいです。

学校教育課長)

いきなりタブレットを各学校に 41 台整備しても、きっと先生たちも戸惑って、いきなりタブレットを使った授業はできないということに陥りかねないという事で、本年度 4 校を先行して拠点校という名前で研究をしてもらって、これを紹介して、次年度から全ての学校でスムーズに授業に取り入れていけるようにというふうに考えております。

谷口教育長)

中学校については、教科の中でプログラミングがあって、技術家庭科の授業にあるので、現在パソコン教室でやっていますので、バランスが悪い様に見えますけれど大丈夫です。

畑中委員)

判りました。それなら大丈夫なんですね。

秋山委員)

基本的な ICT の使い方が身につくことが、スタートラインに立てる一番のことだと私は思っています。高校生の授業を一度見たことがあるんですけど、これだけ高校生は日常

的にスマートフォンなどの機器を使っているにもかかわらず、コンピューターとは扱いが違うみたいで、不慣れな生徒さんが沢山いるなど感じてるところなんです。やはり個人差がすごく大きいもので、これから授業で使っていく中で、やはりパソコンは、日常的に触れたり、慣れてくることで、経験が積み上がっていくという部分もあると思うので、市内の子どもたちがそういう機会に多く触れることが、今後出来るというのはとても良かったと思います。

4番の「今後に向けて」についてですが、2年位前なんですけど、生涯学習課主催のプログラミング教室に子どもが参加させていただいたことがありまして、初めてプログラミングの体験を子どもがしたんです。一つは自分で作ったアニメをUSBメモリに移して、家でこんなことができるんだっていうのを、すごく楽しくみんなで見たい記憶があります。もう一つは、プログラムすることで自分の思った通りの動きをロボットがするという、そういうことがとっても嬉しかったっていうふうに感想を言っていました。

私はそれまでプログラミングっていう言葉だけのイメージで、すごく難しいという感じしかなかったんですけど、それとは全然違って子どもたちは、とっても楽しく、身近なものとして受け入れてるなという感じを受けました。興味とか関心を広げるとっても良い機会になったと私も嬉しく思っています。教育委員会のこのような教室の企画とか、これまでの取り組みをとっても素晴らしいと思っていて、これからの先生方へのサポートにも生かされていかれたらとてもいいなという感想です。プログラミングの初めの一歩になると思うんですけど、それがとっても楽しいスタートになってくれればいいなと願っています。

井出市長)

大変貴重なご意見、ご提言を賜りましてありがとうございました。

能美市は今スポーツで元気でございまして、寺井中学校の女子ハンドボールが全国準優勝、それから鈴木雄介選手が金メダルを取って東京オリンピックに内定をした。その後に飛び込みで三種目制覇した寺井中学校のお子さんがおられて、今度は平田しおりさんがなんと銅メダルを取ってオリンピックに内定したと。それから湯野小学校と福岡小学校の子がピアノの連弾でこれもチャンピオンになりまして、いろんな意味で頑張ってくれているなど見ておるのですが、私の所にご挨拶に来て頂いた方が、今申し上げた方々で、おそらく教育長の所にも、その他にも沢山報告に行かれていますのではないかと思います。やはり自分の先輩と一緒に学ぶ友達が活躍をするということは、その学校や子どもたちにとっては自信や、やる気に繋がるのではないかなという思いです。

今日頂いたいろんなご提言を元に、学力を高めるということだけではなく、スポーツ力とか文化力、これも高めていくことは教育力を高めて行くことだろうと考えておりまして、引続きご指導ご鞭撻を賜りまして、能美市の教育力の向上に努めて行きたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

(閉会)